



戸出市野瀬（戸出地区）

当時のお話

しみず かずお
清水 一夫さん

戦前の農家には鶏が付きもので、どこの家でも灰小屋や納屋の片隅などで数羽から10羽程度飼育されており、エサはイリゴや十分に実っていない穀、魚のザンなどを混ぜたものをやっていました。

戦後になり、労働に余裕のある農家には200羽養鶏が奨励され、昭和30年頃にはケージ養鶏が開発され数万羽飼育する農家も出現しました。しかしその頃になると卵の価格は低落し、生産調整が行われると中小の養鶏農家は淘汰されるとともに、昭和40年頃になると鶏は農家から姿を消しました。

この写真は昭和15年頃、戦争の状況下で家庭を支える婦人として、祖母と母が新聞に掲載された時のものです。



醍醐（醍醐地区）

当時のお話

おおしま いさむ
大島 勇さん

左の写真は、私が営農指導員として働きだした昭和30年代後半に、農家に広く普及し始めた「バインダー」の実演会の時のものです。それまで稲の刈り取りをすべて手作業で行なっていたので、機械で刈り取りながら同時に結束作業もできるこのバインダーはとても画期的な農機で、作業が楽になると大変喜ばれました。

右の写真は昭和40年代前半に登場した初期のコンバインです。大型の最新機械は、まだ一般の農家には浸透しておらず、中核農家の作業を撮影したものです。

